345

星塚（ほしづか）遺跡

（姶良郡横川町下ノ星塚）

位置と環境

本遺跡の所在する横川町赤水地区は町役場から南東方向約４ｋｍにある。本遺跡は天降川による河川開析作用から残存した台地の縁辺部に位置し，標高は約150mで，現況は水田である。本遺跡の東側を南流する天降川は牧園町と境をなしており，星塚遺跡の対岸にはJR霧島西口駅が所在する。

調査の経緯

平成元年，県営特殊農地保全整備事業（ほ場整備）に伴う遺跡分布調査が実施され，当地で姪原遺跡が発見された。平成２年，同事業に伴う確認調査が県教育委員会により実施された。その結果，縄文時代の数時期に渡る複合遺跡であることがわかった。さらに，当地に県道改良工事（一般地方道紫尾田～牧園線改良工事）が計画され，これに伴う発掘調査が平成４年に実施された。県道部分の小字が「星塚」であるので，星塚遺跡と命名した。

遺構と遺物

本遺跡は複合遺跡で，次のような成果があった。

＜**細石刃文化期**＞細石核，細石刃，台形様石器，尖頭器，剥片，敲石などが出土した。

＜**縄文時代早期**＞集石遺構５基。土器は押型文土器，手向山式土器。石器は石鏃，石匙，敲石，磨石など。

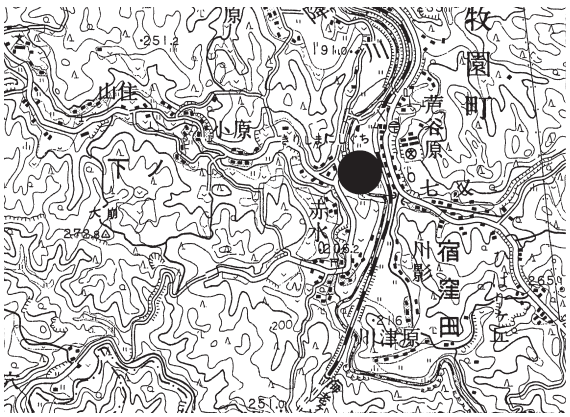
＜**縄文時代前期**＞野口式土器，曽畑式土器，深浦式土器が出土した。

＜**縄文時代後期**＞市来式土器が主体で，納曽式，草野式がわずかに出土している。器種は深鉢のみである。遺構は土坑が検出されている。

＜**縄文時代晩期**＞入佐式土器，黒川式土器，突帯文土器など。精製品は浅鉢，中鉢，粗製品にはマリ形，深鉢がある。また，孔列文土器も出土している。

縄文時代前期～晩期の遺物はすべて同一層で発見され，石器も多量に出土している。しかし，石器の帰属時期判断は困難である。石器には，石鏃，石匙，楔形石器，磨製石斧，打製石斧，敲石，磨石などがある。

＜**古代**＞土師器，黒色土器，須恵器，墨書土器，紡錘車，土錘が出土。土器は椀・坏の食膳具や甕など煮炊具も出土している。遺構は焼土が３か所，土坑２基が発見された。



第１図　星塚遺跡の位置

特徴

本遺跡出土の縄文時代前期土器は特徴的である。この時期の土器は野口式土器，曽畑式土器，深浦式土器の３種に比定される。

野口式土器は，福岡県久留米市野口遺跡出土土器を標式とするもので，文様は沈線で曲線文，弧文，波状文，渦文，複合鋸歯文を描くものである。

曽畑式土器は熊本県宇土市曽畑貝塚出土土器を標識とする。九州における縄文時代前期の代表的な土器のひとつである。

本遺跡で出土する野口式，曽畑式土器はどちらも胎土に滑石を含むものと含まないものがある。また，曽畑式土器は沈線によって平行線と複合鋸歯文を施す特徴的な文様を呈している。

深浦式土器は，枕崎市深浦遺跡出土土器を標識とする。文様は連点文や突帯文を有す。本遺跡での深浦式土器の出土状況は特徴的で５個体程度出土しているが，各個体が，それぞれある一定範囲のうちにまとまって出土した。野口式土器などが散在しているのと明らかに異なった出土を示している。また，補修孔をもつものや赤色顔料の塗布されているものなどがある。

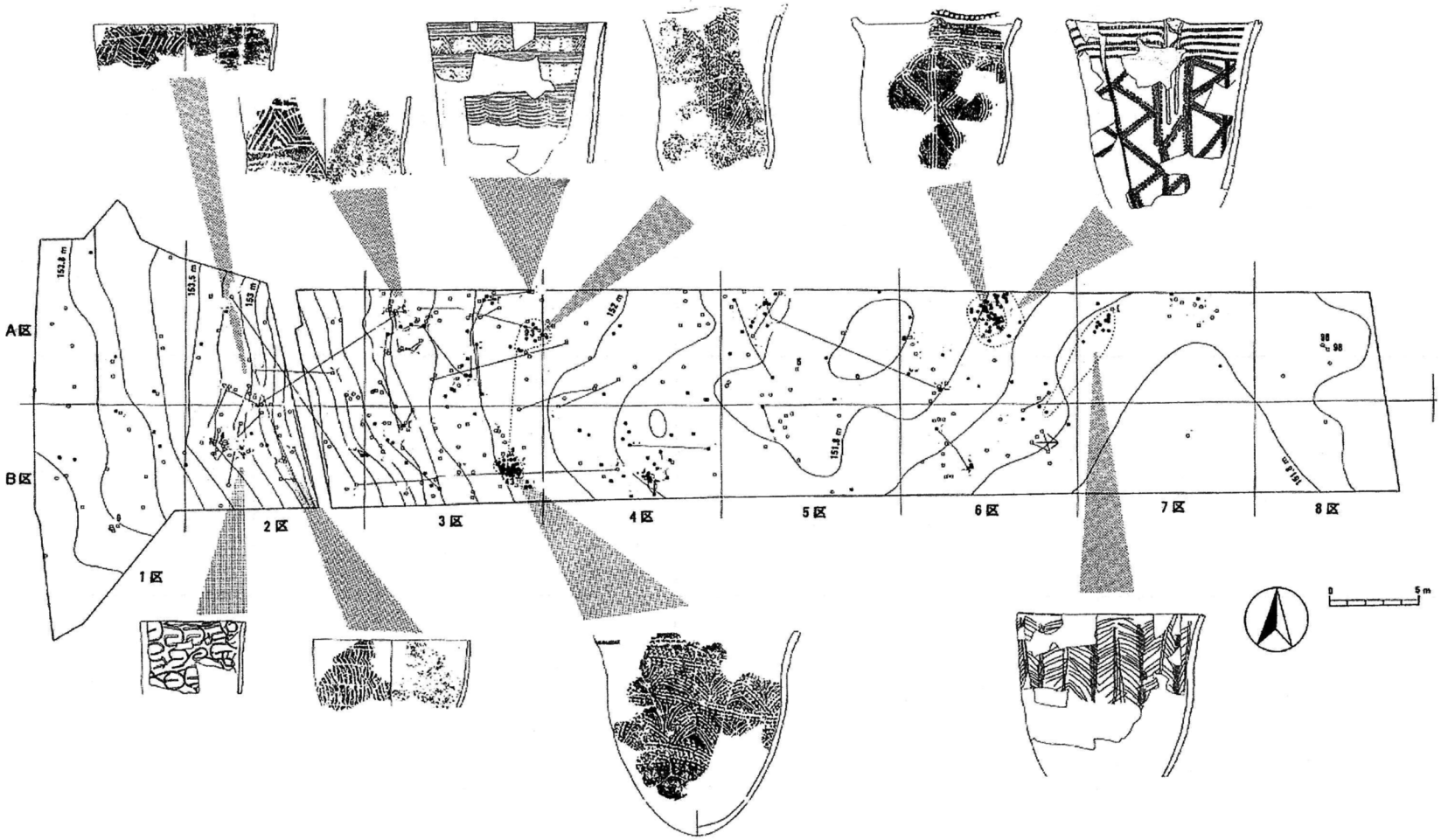
資料の所在

出土遺物は，鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

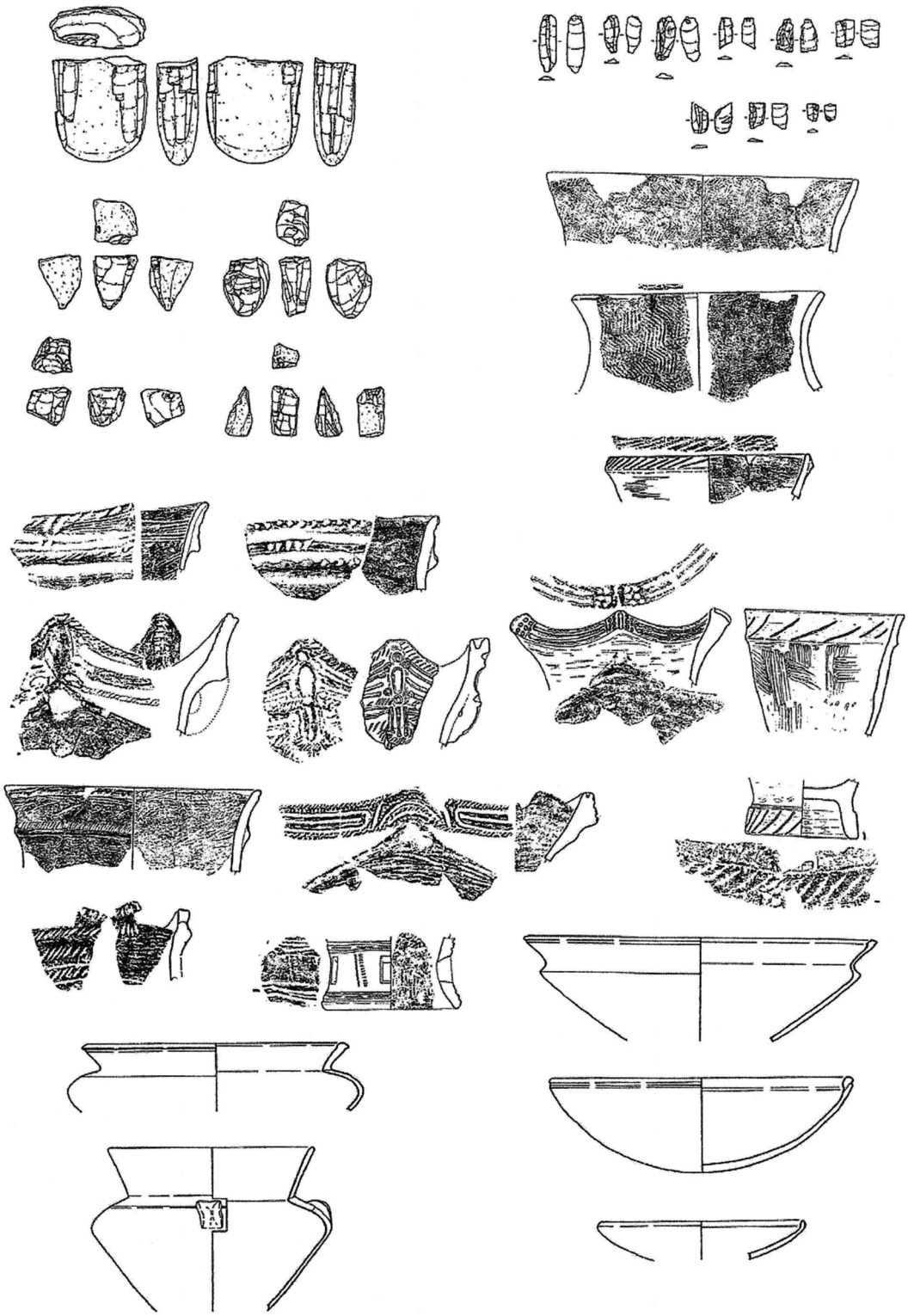
参考文献

鹿児島県立埋蔵文化財センター1993「星塚遺跡」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』（７）

（中村和美）



第２図　前期土器出土分布図



第３図　星塚遺跡出土遺物実測図（土器：S＝１/４，石器：S＝１/２）